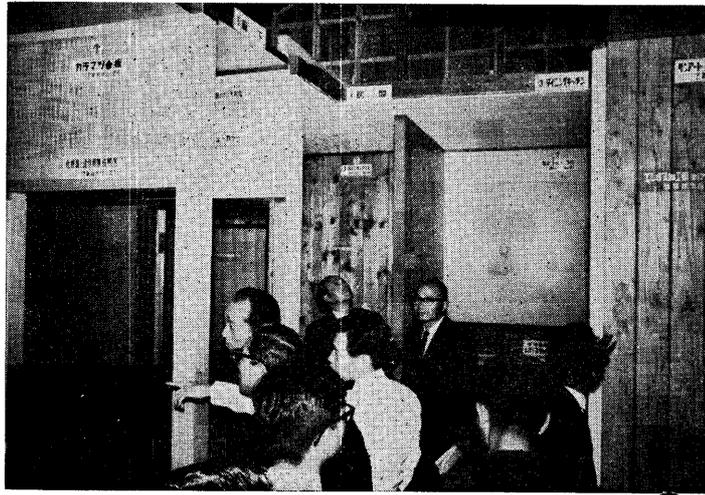


<くらしと木材展>

モデル・ルーム展示

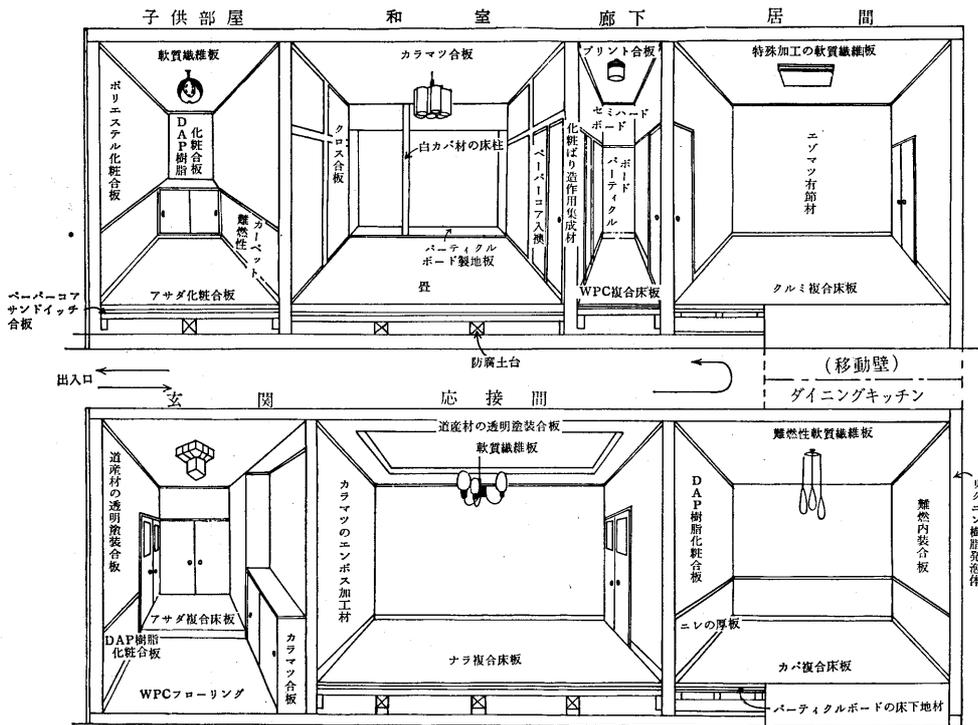


モデル・ルームについて

”くらしと木材展”のテーマで設置されたモデル・ルームは、当场で試作したエゾマツ彎曲集成材と、カラマツ類合板でくみだてられた建物のなかにもうけられ、玄関、応接間、ダイニング・キッチン、居間、廊下、和室、子供部屋の七つの部屋によって新しい木質系建材などを展示した。72.9m²(9×8.1m)の

建物のなかになにができるだけ多くの部屋をしつらえようとしたため、モデル・ルームの広さを部分的に小さくせざるをえなくなり、材料のもつ個性をあらわすためには適当でない場合もあったが、木材の良さ、木材の新しい用途を表現しようとする意図は一応達成することができたと思う。

第1図はモデル・ルームの立体配置図であるが、こ



第1図 モデル・ルームの立体図

の順序にしたがって、各部屋の特徴と使用内装材料を説明する。

玄関

玄関には、道産材の透明塗装合板を主として使用し、天然木理の美しさを表現するとともに、最近話題になっているWPCおよび北洋カラマツの透明塗装合板などを持ちいた。

”たたき”にはったWPCは、プラスチック処理(重量増加率64%)をほどこしたカバ材のフローリング原板をさね加工したもので、WPCのもつ寸度安定性、耐摩耗性の優秀さを理解してもらうため土足であがってもらうことにした。また壁には、ニレ材でアクセントをつけ、自然木理のかもしだす調和の美しさをあらわしたニレとセンとの混用透明塗装合板をはりめぐらし、さらに天井材としてもセンの未着色透明塗装合板を使用した。なお天井の一部はニレの着色透明塗装合板でアクセントをつけた。腰壁にはDAP(ジアリルフタレート)樹脂含浸紙を特殊な加工法でオーバーレイし、石目の感触をたのしませることを目的としてつくられた特殊合板を持ちいてデラックスな感じを高めた。そのほか玄関ホールの床板はアサダの源平模様の小市松複合フロア(木質複合床板)であり、ドアはカバ材(ハーフロータリー単板)の透明塗装合板によって作製したものである。

また、”たたき”に据えつけた下駄箱(当场試作品)は、シナのランバーコア合板にソ連産カラマツの柾目および板目合板を貼りあわせて組立てたものであるが、新しく市販された化粧合板のカットサイズとしての一用途をしめした。

これらの材料のうち、WPCのフローリングは試作品のため単価は不明であり、樹種、プラスチックの種類、注入率などによっても異なってくるが、未処理木質製品の3～6倍程度になると考えられている(当场林産化学部調べ)。

応接間

ここでは、とくにその用途開発と市場開拓の重要性が論議されている道産造林カラマツでエンボス加工材

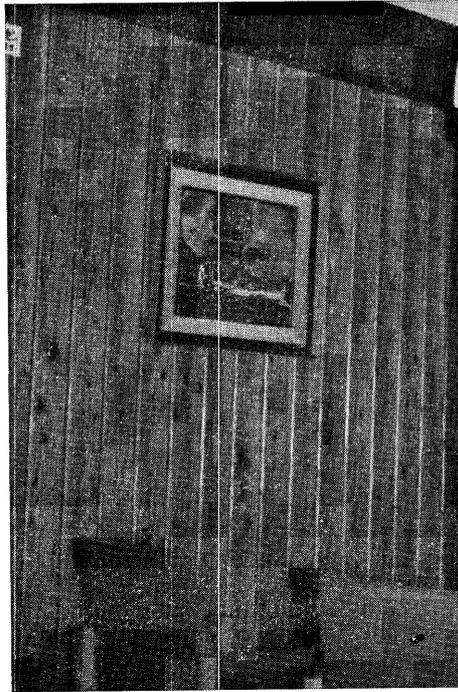


写真1 カラマツ・エンボス加工材

を試作し、壁面材料としての価値判断の資料を提起した。そのほか、天井材には難燃効果をもたせるため無機質を含有した塗料で処理した軟質繊維板とセンの透明塗装合板を持ちいて中底天井をしつらえ、床にはナラ材のピースを合板表層に貼りあわせたモザイクフロアを使用して落ちつきのあるムードをもたせた(写真1参照)。

カラマツのエンボス加工材は、樹令31～35年、平均未口径22cmの原木より板目挽きし、天乾、人乾後ブレンダー加工、テンダーライズ加工をほどこした巾135mm、厚さ10mmの材を持ちい、さらに木目と節の美しさを強調するためナイロン・ホイール・ブラッシュによって春材部を研削したものである。内装材料であることを考慮し研削量は小さく、表面の塗装処理はできるだけ素材のもつ自然の美しさを生かすように心がけた。すなわち研削深さ200～600μの加工材を水性染料であま色に着色し乾燥、研磨したのち、アクリル・ラッカー・クリア(3分づや)を2回塗布し、不自然にならない程度につや出しをするにとどめた。なお、素地着色後の研磨には試験的にナイロンブラッシ

によっておこない、上塗り後にはスコッチブライトをもちいた。またエンボス加工材の価格は、試作品であるため明確でないが、15mm厚のナラ・フローリングが3500～4000円/3.3㎡であることを考え合わせると同等以上になるものと推定される。

ダイニング・キッチン

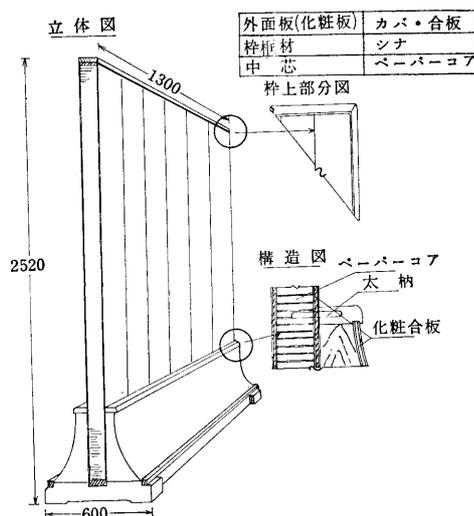
ダイニング・キッチンは、主婦の生活の大半を過ごす場であると同時に、家族が一堂に会す団らんの場ともなる大切な部屋であるが、このモデル・ルームではとくに保温性、難燃性に留意して設置した。

すなわち、壁の一部には本年1月5日より施行されたJASの認定をうけた難燃合板を使用し、また天井材にも難燃材料として認定をうけた軟質繊維板(発泡性防火塗料塗布)をもちいた。さらに壁のあいだには、難燃性の断熱材として当场で開発したリグニン樹脂発泡体(ペーパーコアに充填)を挿入し、床下見板としてはアルミ箔を裏うちして防湿処理した厚さ15mmのパーティクルボードを使用して保温性の向上をはかった。

そのほか、壁の一部には容易に水ぶきができるようにDAP樹脂含浸紙をオーバーレイした特殊加工化粧合板をつかい、また腰板にはニレの厚板(厚さ22mm)をはりめぐらして部屋全体にやわらぎをあたえている。玄関の腰板にももちいたが、DAP樹脂は熱硬化性樹脂としての堅牢さと、熱可塑性樹脂の加工の容易さとを併せもっている点に特徴があり、その外観は暖かみのある深い光沢をもち、耐候性、耐摩耗性、加工性などの諸特性にすぐれている樹脂である。またニレの厚板は、プレーナー加工後淡いくり色に着色した1液性ウレタン樹脂塗料を二回塗布し、落ちついた感じをたかめた。床にもちいたカバ小市松複合フロアは、とくに材色のちがいを利用して規則的な模様をつくりだし、近代的な感じを表現してみた。

移動壁

生活のシステムの変化によって、部屋の広さを自由にかなえることができるようになれば、合理的で楽しい雰囲気をつくりだすことができるが、ダイニン



第2図 移動壁の構

グ・キッチンにはこのような目的をもって木質系材料をもちいた移動壁を当场で試作した。移動壁の構造は、保温性と軽量化との条件をみたすため、第2図にしめすようにペーパーコアを中芯材料とし、表層にはカバの透明塗装合板をもちいてしあげたものであるが、断熱材の併用やデザインをかえることによって、移動可能で遮音性、断熱性にすぐれた飾り棚、収納棚とすることもでき、一般家庭にも十分応用可能なものと思はれる。

居 間

この部屋の特徴としては、塗装をほどこしたエゾマツの有節材(厚さ20mm)を壁面材料として利用したことである。すなわち、木材の大きな欠点と見放されている節を利用して、天然の装飾的な面白さをみなおすことを意図し、カラマツのエンボス加工材とともに製材品の付加価値を高めるために試作したものである。有節材は、平均直径34cm、平均樹令89年の原木より挽きたてたものを天然乾燥し、プレーナー仕上げのちワイドベルトサンダーで素地調整をおこない塗装した。塗装は、水溶性染料で素地着色したのち、ウレタン樹脂塗料を2回塗布し艶出しをして仕上げたが、着色不能となって大きな塗装欠点の原因となる樹脂分は有機溶剤によって容易にとりのぞくことができ

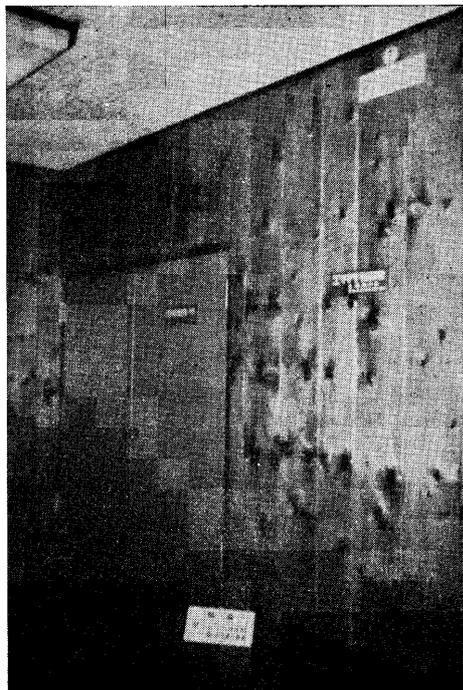


写真2 エソ マツ 有 節 材

る。このような方法で試作した3種類の幅をもつ有節材(大; 23cm, 中; 18cm, 小; 11cm)を、-大-大-中-大-大-小-の順序で壁面にはりつけたが、巾23cm、長さ250cmの材面には7~15コの節が散在しており、また節の大きさは約20~50mm程度である(写真2参照)。有節材の仕上げ上の問題点としては、研削加工時に生ずる節周辺の逆目が塗装処理によって強調され見苦しくなることもあるため、塗装処理にさきんじて、乾燥処理、加工処理もふくめた素地調整技術の向上をはかる必要がある。部屋の大きさなどを考慮して、適当な加工材の厚さ、節の形状と出現個数、塗装処理法を選定すること、および他種壁面材料を併用することによって、さらに有節材のもつ天然美を強調しうるのであろうが、一応当初の目的は達成されたものと考えている。

そのほか、天井には軟質繊維板に型おとした耐水塗装処理材料をもちいたが、水ぶきの可能な天井材として選定したものである。また床にはクルミの柃目単板を小市松にはりあわせた複合フロアをもちいたが、その色調は光線の方向によって変化し、天然自然のかも

したす面白さが特色である。

廊 下

廊下では、いわゆる改良木材自体をみてもらうためと、材料のもつ遮音性を利用してウレタン樹脂で透明塗装したパーティクルボードおよびカラー塗装した半硬質繊維板を壁面材料として使用した。

床には、歩行量がとくに多いことを考慮して、シナのWPC単板をはりあわせた複合フロアをもちいた。シナ材のような軟材は、耐摩耗性の要求される床材料として不適當であるが、モノマーの注入性が良好であるため、耐摩耗性、硬度などにすぐれた高級材料としてうまれかわることもできる。

天井には長尺の目すかし天井板をもちいた。材料はいわゆるプリント合板であって珍しい品物ではないが、45×273cmの表面積をもつ長尺のものであること、および枠ぐみをしているため容易に目すかし施工が可能であることなど、部品化された点が特徴である。なお、供試材料のうちWPCフロアは市販品でないため価格は明らかでないが、最近設計価格約14,000円/3.3m²で類似製品が販売されている。

和 室

天井材料には、下駄箱にももちいたカラマツ合板を、また壁はクロス合板で仕上げたが、そのほか化粧ばり造作用集成材による柱、鴨居、敷居およびペーパーコアによって耐衝撃性を改善させた軽量の襖、または特殊な乾燥方法によって製造した皮つきシラカバ材の床柱など、特色ある材料をもちいている。

化粧ばり造作用集成柱は表面材料に無欠点のスプルス材をはったものであり、敷居は耐摩耗性を考慮してアサダ材を表層に使用している。またシラカバ材の床柱は、直径10cm程度の小径木の芯部分に30mmくらいの穴を丸高式割穴機であけ、このなかに燃焼ガスをとおして乾燥させた試作1号品である。

床の間には、パーティクルボードを中芯材料とし、樹脂板を表面に被覆した地板をもちいた。最近、安直に床の間をしつらえることが可能な部品として、地板、地袋などをふくむ”床の間セット”なるものが販

売されているが、ここでは木質材料と合成樹脂の複合材料の一つとして、上記地板を選定使用した。

子供部屋

この部屋では、子供がころんでもぶつかっても支障のないように、床や腰壁に衝撃緩和性の材料をつかっていることが特徴となっている。すなわち、床には91×182cmのペーパーコア・サンドイッチ合板をとりつけたのち、アサダの市松模様の透明塗装合板(303×1820×3.3mm)を表層に現場接着して仕上げ、腰壁にはラワンの普通合板のうしろに難燃性のカーペットを両面粘着テープではりつけてみた。ペーパーコアの耐圧強度は約10kg/cm²であって緩衝性、保温性ととも、ユーザーのこのみによっては、サンドイッチ合板のうしろにビニタイル、カーペットなどで化粧することも可能であるため、さらに低発泡プラスチックをセル内に充填することによって特徴ある床下地材とすることができうる。

そのほか、天井には可愛いらしい模様をプリントした軟質繊維板をはり、壁の大部分はイタズラ書きできるようにフィルム法で製造したポリエステル化粧合板をもちいた。またオモチャ入れ、人形おき場とするためにしつらえた地袋、天台は、当场で試作したヤチダモ化粧ばり合板で作製した。

その他

以上の各モデル・ルームには、フェノール類と無機弗素系の化合物よりなる水溶性防腐剤で加圧注入処理したトドマツ防腐土台をもちいており、また壁のあいだにはリグニン樹脂発泡体をペーパーコアに充填した難燃性の保温材を挿入し、断面を切断して供覧した。

さらに各室には本誌11月号で紹介したように、各国公立研究機関より借用した調度品などでかざり、一般め参観者にも木材の良さ、または新しい建材についての理解を深めてもらうよう努力をはらった。

アンケートについて

前項で説明した諸材料をもちい、当场総務部、試験部の協力をえながら、木材部職員総力のもとにモデル

・ルームを短期間のうちに完成させ、さらに参観者の理解を深めるために各部室の特徴、使用材料を印刷したリーフレット、女性アナウンサーによる解説テープを用意し、8月24日の記念行事の開催にそなえた。またデザイン的に種々制約があり、満足のいかない点多々あったが、建材や照明器具の選定、試作品の機械加工、組立て、接着、塗装処理ならびに設計施工にあたった当事者としては、参観者の反応、反響に興味をもたれたので、リーフレットとともに簡単なアンケート用紙を配布し、職業別に興味をもった建材ならびに意見を記入してもらうことにした。

1週間にわたる会期中に数回参観にこられた方がいること、入場者数が予想をうまわり混雑したことなどの理由によって、全入場者数を把握することはできなかったが、アンケート用紙の配布枚数は2,275枚、回収率は61.1%であり、多数の方々からの積極的な協力によって意図することが一応むくわれたものと考えている。

1) 興味の対象となった建材

会期中に回収されたアンケート用紙は1,390枚であり、第1表に示すように、木材製品製造関係者が最も多いことは当然と考えられるが、その他一般市民の

第1表 職業別回答者数

項目	職業					記入なし	計
	研究教育関係	木材製品製造関係	建材販売関係	建築設計関係	その他		
実数	150	647	42	46	467	38	1,390
比率*	10.8	46.6	3.0	3.3	33.6	2.7	100.0

注：*回収アンケート数にたいする割合(%)

参観者数も多く、建築に対する関心度の高いことをものがたっている。

つぎにモデル・ルームで使用した建材のうち興味をもった製品についての結果を集約したものが第2表である。

全般的には、カラマツのエンボス加工材、道産材の化粧合板、エゾマツ有節材、化粧ばり造作用集成材、道産材の複合床板、リグニン樹脂発泡体、プラスチック加工床板、ペーパーコア・サンドイッチ合板の順位

第2表 展示場内で興味をもった建材(職業別)

職 業 建 材 名		研究教	木材製品	建材販	建築設	その他	計
		育関係	製造関係	売関係	計関係		
道産材の 化粧合板	実数	49	208	15	11	138	421
	*比率	32.7	32.1	35.7	23.9	29.6	31.1
道産材の 複合床板	実数	26	125	5	9	91	256
	*比率	17.3	19.3	11.9	19.6	19.5	18.9
プラスチック 加工床板	実数	49	63	8	6	69	195
	*比率	32.7	9.7	19.0	13.0	14.8	14.4
エゾマツ 有節材	実数	37	191	18	9	133	388
	*比率	24.7	29.5	42.9	19.6	28.5	28.7
カラマツ・エ ンボス加工材	実数	57	263	10	11	201	542
	*比率	38.0	40.6	23.8	23.9	43.0	40.1
パーティクル ボード	実数	8	30	1	3	24	66
	*比率	5.3	4.6	2.4	6.5	5.1	4.9
リグニン樹脂 発泡体	実数	41	93	13	7	85	239
	*比率	27.3	14.4	31.0	15.2	18.2	17.7
化粧ばり造作 用集成材	実数	26	125	5	9	100	265
	*比率	17.3	19.3	11.9	19.6	21.4	19.6
ペーパーコア 合板	実数	20	60	5	3	62	150
	*比率	13.3	9.3	11.9	6.5	13.3	11.1
** そ の 他	実数	5	8	2	1	16	32
	*比率	3.3	1.2	4.8	2.2	3.4	2.4

注 *アンケート用紙に記入した人に対する割合(%)

**その他には、カラマツ合板、クロス合板、難燃カーペット、軟質繊維板、防腐土台などがあつた。

で関心がしめされていた。製材の2次加工品として試作した製品のうち、エゾマツ有節材にたいしては建材販売関係者が、またカラマツのエンボス加工材については木材製品製造関係者とその他一般参観者の人気がよく高かったことから、この実験が成功したものとうけとり、意を強くしたしたいである。そのほか、プラスチック加工床板が研究教育関係者にとって、またリグニン樹脂発泡体が研究教育関係者と建材販売関係者に興味をいだかせたことなど、この表からいろいろと面白い示唆があたえられる。

また、アンケートに回答した参観者の92%強はこのモデル・ルームによる製品展示が大変参考になったと記入してあつた。

2) モデル・ルームにたいする意見

アンケート用紙には、191名の参観者がモデル・ルームについての意見、批判、要望などを記入しており、そのうち展示材料の価格を明示してほしいという要望が最も多く、ついで資料館とともに永く保存する

ことをのぞむもの、あるいは再度開催してほしいという意見が相当数にのぼっていた。そのほか、林産試験場や木材製品などのPRを積極的におこなうべきであること、また大変意義のある催しであった、などの賞讃やはげましの言葉とともに、モデル・ルームがせますぎるなどの批判もあつた。

”くらしと木材展”の開催中には、木材部研究職員が説明員となつて参観者と接触していたが、アンケートの集約結果にもあらわれてしいるように、カラマツ合板で作製した下駄箱、カラマツのエンボス加工材、移動壁・エゾマツ有節材などにたいする反応がよいように感じられた。これらのなかでは、エゾマツ有節材にたいする良否の意見がはっきりとわかれているようであり、粗野

な美しさを良しとする参観者と、ともに、部屋の大きさが適当していないため節径が大きすぎるという批判や、一般住宅用材料として馴染めるかどうかと疑問をもつ人も少なくないようであつた。

いろいろな制約のあつたなかで設置したモデル・ルームであるため、材料に適当した内装となちなかつた点もあるが、多くの人々に木質系建材の良芦、木材のあらたな用法についての試みなどを理解していただくとともに木材製品製造関係者などのコミュニケーションの場としての役わりも果し、参観者の要望などによって当分現状のまま存続して開放することになつた。

なお、このモデル・ルームには45点の建材(内装材料と断熱材、床下地材、防腐土台)をもちいているが、そのうち35点は24社の合板メーカー、繊維板メーカーの提供または協力によつたものであることを付記し、紙上をかりて厚く感謝の意をささげたい。

木材化学製品展示

計画など

当日の展示会場入口には、つぎのプロローグをかかげた。

『この展示は、木材の利用上の欠かんである狂う、腐る、燃えるなどの欠点をおぎなうため、当場林産化学部が取組んでいる種々の化学的な木材改質処理について説明し、あわせて木材化学工業製品と最近話題になっているプラスチック低発泡製品(合成木材)を紹介するものです。』

充分意を尽さない文章であるが、化学製品展示の内容を端的に表現したつもりである。

最終的に今回の展示が集約されるに先立って、まず各科から出展物のリストアップがなされ、ついで展示計画の立案、検討が会期の約2カ月前である6月下旬に、部内で行なわれた。その後、全体計画とにらみあわせて展示の方針としては、つぎの3つがその骨子となった。

- 1) 木材の化学的利用の中心である紙パルプ工業の内容を紹介する。(木材化学工業製品コーナー)
- 2) 木材の欠点(狂う、腐る、燃える)をおぎなうために行なっている当場の研究について化学的な処理を中心に紹介する。(木材の改質コーナー)
- 3) 木材に挑戦する低発泡プラスチック製品の現状を紹介する。(低発泡プラスチックコーナー)の3つのコーナーを設け、これらを木材部の展示と共通したテーマである“くらしと木材展”という形に焦点を合わせてまとめることを計画の大綱とする。さらに、防火に対する一般の理解を深めるために、燃焼実演コーナーを設けることがほぼ決定された。

この線に沿って、ただちに展示サンプルの収集のた



めの提供依頼状を7月上旬に発信した。(収集予定リストは事前に整理、用意された)これと平行して、具体的な計画の立案のためには展示スペースの問題があり、当初は木材部で担当する建材展示部と同一場所に設ける予定を立てたが、両者とも不十分なスペースしか得られない可能性が出てきたため、7月上旬にいたって化学部の展示は、開発試験室内に設けることとなった。

展示パネル構成などの実際の具体的なレイアウトを行なうために、各科から1名の代表者を選出し、コーナーごとのパネル構成案を提出したうえ、これを総合的な形で検討することとし、7月中旬、各科代表者との原案作成、検討に入った。

展示内容について

展示内容の最終的な選択のためには、サンプルの収集もある程度進行することが必要であったが、時期的な問題もあり、ただちにパネルのレイアウトを含めた内容の選択に入った。経過は省略するが、各コーナーのレイアウトを7月下旬までにつぎのように定め、早速、看板製作の下原稿の準備にとりかかった。

イ) 木材化学工業製品コーナー

木材から生産されている化学工業製品をセルローズ、ヘミセルローズ、リグニンの三大構成成分別に紹介する形を基本とし、従来の製品に加えてC・M・C(

糊安定剤), アビセル(錠剤成形用微結晶セルロース), ストラクタン(乳化懸濁用アラビノガラクトン), パンフォリン(制癌剤), キシリット(人工甘味医薬品)などの成分を利用した形の医薬, 工業薬品や紙製衣類, グリーンファイバー, ペーパーポット, ペーパースツール, 不織布(紙)などの紙製品, リグニン発泡体, 合成紙(プラスチック製品)などの展示を含めることとした。

とくに, 現在の基幹産業である紙パルプ工業については生産量の動向なども表示することにした。

ロ) 木材の改質コーナー

木材の欠点と防止方法, 防止処理材料(製品)として, 今日みられるものには, つぎのようなものがある。

- 狂 ough 乾 燥—天乾, 人乾材
- 腐 る—防 腐—防腐(電柱, 枕木, 土台)
(虫害) (防虫) (防虫床板)
- 燃える—防 火—難燃(合板, パーティクル, 繊維板)
- 異方性—接 着—合板, パーティクル, 繊維板
(不均質)

これらの欠点が実際に現われている被害材と処理製品を直接手に取って比較しながら, 見ていただく形の展示を中心に広範囲に出展物を整理することにした。

とりわけ, フェノール樹脂強化木製品, WPC製品(当场試作品も含め)などのプラスチック処理製品

は, 最近開発されつつあるものであり, この状態を見ていただくためには相当高価な市販品も含めた展示にすることとした。

ハ) 低発泡プラスチックコーナー

このコーナーは, 業界からの強い要望もあって, 直接木材製品ではないが, 木材に挑戦する新しいプラスチック工業製品として注目されている低発泡プラスチック(合成木材)の姿を目のあたりにみることによって, その得失を充分把握してもらい, 今後の木材産業自体の啓蒙の機会となることを意図して展示することにしたものである。原料であるプラスチックは, ABS樹脂(アクリルニトリル, ブタジェン, スチレ

ン共重合体)やスチレン, ウレタン樹脂などの発泡体であり, いづれも家具, 調度品, 装飾材料など彫刻や複雑な切削加工を主にしたものが多いが, それぞれのメーカーで多少ねらいが異なるので, できるだけ多くの会社の製品を展示しよう計画した。

二) 燃焼実演コーナー

最近, 薄物プリント合板などが多く出廻ってきているが, きわめて火災の危険度が高く, 一方, 今年改正された防火試験法に合格する難燃合板は, その防火性能も相当高くなってきているので, これらの状態を見ていただくための実演と, 断熱材料として使われているスチロール発泡体に比較し耐熱性の面にすぐれるリグニン発泡体の燃焼実験を合せて行なうこととした。

会期が近づくにつれて続々とサンプルが到着しはじめ, パネルへの取付け, 表示板の整理, 追加など次第にたて混んできたため, 各科からの追加動員もお願いするとともに, 展示準備もいよいよ最終的な段階に突入した。各科からのサンプルは持ち込みも, オープンぎりの前日まで続いた。

会期中のこと

入場者数は開会当日の152名から終了日の812名までうなぎのぼりに増加し, 総数2,746名に達した。

最初, 防腐土台や防虫フローリングなどを紹介するために準備した一般向けパンフレットも, 当初の予定を



はるかに越えたため、2日目からは会場で記名した方にだけ差上げるという処置もとらざるを得なかった。

コーナー別の人気は、参会者によりまちまちであったが、木材業界の人の眼は当然のように、合成木材に集中した。アイヌ部落からの1グループが合成木材コーナーに置かれたウレタン樹脂製の鮭彫りをみて(われわれからはみごとにみえたが)、母型の彫刻が稚拙であることを指摘するひとこまもあった。また、木目まで印刷されたウレタン製品を手にとり、絶対に木材であると社員にいい張る木工場の事業主もあって、そのあと説明員はしきりにこのウレタン製の扉部材を見学者に対する謎かけ材料に使って、会場の笑いをよんだ。

フェノール樹脂強化木、WPC、難燃合板、防腐土台、防虫フローリングなどに対する質問の多くは、一般の見学者から建築技術者、さらには、これらの生産を手がけようとしている木材業界の人々までまちまちであったので初歩的な質問から、かなり専門的なものまで多種多様であった。

式典当日の26日には行政、学会、機械メーカーなどのお歴々が多く廻られたので、各科からの説明員もと

りわけ緊張した面持ちで応接に当たった。

最終日ころの土、日曜日には団体の見学者が詰めかけたので燃焼実験も予定の時間を切りつめ、一団体ごとに行なうサービスをつとめたこともあって、会場内はなんとなく熱気をはらんだ興奮した雰囲気にも包まれた。

参加商社57社(化学工業製品展示コーナー15社、木材の改質コーナ-33社、低発泡プラスチック製品コーナー9社)の多数の協力を得て、展示内容が予想以上に賑やかになった。その関係で反面、当初の目的の一つであった”くらしと木材”のなかにどの程度、当場の研究が加わっているかを充分理解していただけたかどうかは興奮の静まった現在、一抹の不安として残っている。しかしながら、今回の展示を通じふだんとかく自分たちの仕事や周辺の狭い範囲だけしかみていなかったことに気づくとともに、多くの人に接してみても幅広い思慮の必要なことを痛感する機会が与えられたことに深く感謝している。